

ドラマの一場面で、島田叡知事を演じる緒形直人さん（右）（TBS提供）



きょう沖縄\_慰靈の日

(上)  
田勇紀

太平洋戦争末期の沖縄戦当时、沖縄県知事を務めた神戸市出身の故島田叡氏。（参考） 戦況悪化のなか、県民に寄り添い、県外疎開や食糧調達に力を尽くした。今も沖縄で「島守」と慕われる。その姿に感銘を受けた島田氏の母校、兵庫高校出身のテレビ局プロデューサーが、生きざまを描いたドラマを作成している。23日は「慰靈の日」。島田氏ら犠牲者を悼み、沖縄は戦後68年の深い祈りに包まれる。

## 神戸出身・戦時下の知事

# 島田叡氏の生涯 ドラマに

しているのは、兵庫高校卒業生で、TBS報道局の制作プロデューサー藤原康延さん(55)＝埼玉県在住。同僚の岩城浩幸さん(57)らとともに、昨年10月から取り組んでいる。

番組はドラマとドキュメンタリーで構成し、2時間10分。島田氏と、住民を巻き込み20万人以上の犠牲者を出した沖縄戦に迫る。

藤原さんは、生存者らを丹念に取材。その証言などから明らかになつたのは、「玉碎」の言葉が飛び交う沖縄戦下、周囲に「生

しているのは、兵庫高校卒業生で、TBS報道局の制作プロデューサー藤原康延さん(55)＝埼玉県在住。同じ僚の岩城浩美さん(57)らとともに、昨年10月から取り組んでいる。

島田叡氏



島田叡氏

「簡単ではございませんでした。」  
転々としながら執務を継続。同年6月以降、糸満市  
摩文仁(まぶに)付近で消息を絶つた。遺骨は見つかっておらず、最期は謎に包まれている。当時43歳。

きる」と伝え続けた島田氏のメッセージだった。

元沖縄県職員の80代女性は「死ぬ覚悟を決めているのに、『どうして』とショックで声が出なかつた。知事の言葉の意味が分から始めたのは、終戦からだいぶ時間がたつてからだつた」と振り返り、島田氏への感謝の言葉を述べたという。

島田齋 1901年、神戸市須磨区生まれ。旧制神戸二中（現・兵庫高）などを経て東京帝国大（現・東京大）から旧内務省に入り、45年1月、最後の官選（政府が選んだ）知事として沖縄県知事に就任した。地上戦となつた沖

# 県民に慕われた「島守



藤原さんらか最も悩んだのは、島田氏の最期の描き方だ。自決したという見方もあるが、藤原さんは「あれだけ『生きる』と云え、命を大切にした人。きっと職務を全うしようとしていたはず」と真っ向から否定する。

トマは島田氏役に緒形直人さん、島田氏を支える荒井退造・沖縄県警察部長役に町場浩司さんを起用。知事赴任時から消息を絶つまでを克明に描く。また、デキュメンタリーは、兵庫高校の同窓会「武陽会」が今年3月、沖縄県を訪れ、

「兵庫出身で、大勢の沖縄県民の命を救った島田知事のことを、多くの人に知ってもらえる作品にしたい」。藤原さんら制作スタッフは23日、沖縄県糸満市

太平洋戦争末期の沖縄戦が終り、したゞされる23日の「慰靈の日」を前に、最後の激戦地となつた沖縄県糸満市摩文仁の平和祈念公園で22日夜、追悼式の前夜祭が開かれた。公園内では多数のろうそくの火を並べて「平和」「WORLD PEACE」の文字が描かれ、遺族らは戦没者の冥福を祈つた。

## 追悼の火 摺れる 　　油縄で前夜祭

国籍や軍民問わず、沖縄戦の全犠牲者らの氏名が刻まれている石碑「平和の礎」には今年62人が追加され、合計で24万1227人となりました。那覇市の金城秀子さん(71)は、親族の名が刻まれた石碑に花と茶を手向け「元気でやつります。見守ってください」と述べました。

「高校時代、島田知事のことはあまり知らなかつた。40歳を超えて偉大さに気付いた」と話す藤原康延さん